

# 災害を知る、備える、実践する

先日、福井県を震度5弱という地震が襲いました。57年ぶりの大きな地震に一時騒然とし、災害の恐怖を改めて感じました。そこで今回は、72年前の福井地震の体験談や、災害に備えて茜会が行っていることをご紹介します。

## まちあいしつ

### 知る

吾亦紅 清原雄二様(87歳)の  
福井地震体験談



損壊した大和百貨店

滅だった。福井市内では二千戸あまり焼失し、三千人を超える死者が出た。鉄筋の大和百貨店が大きく歪んでいた。

昭和23年6月28日午後4時ごろ突如として揺れた。私はこの日、母が三国病院に入院中で氷嚢の水を買いに氷屋にいた。ガタガタと揺れ始めたので、木造の家が膨れ上がり潰れそうに大きく揺れた。外へ出ると、軒が壊れ、瓦が落ちた家があった。震源地は丸岡町、坂井郡の農村部は全

私は通り道の新保橋が壊れしまい、しばらく帰ることができなかった。歩いて渡れるようになるまで大変な日々を送った。

お話を聞くだけで脳裏に凄まじい光景が浮かびあがりそうです。大和百貨店が崩れてしまったことは当時の福井の人々にとって衝撃的なことで、新聞等の記事にも大きく取り上げられました。

### 備える



今年7月豪雨により、河川が氾濫し熊本県球磨村の特別養護老人ホームにおいて、多数の利用者が亡くなるという痛ましい被害がありました。その為、茜会の災害時のマニュアルを見直しました。

階層が低い吾亦紅が最優先に避難出来るよう、吾亦紅の避難誘導手順を細分化しました。まず警報が出たら各所属長で話し合い、避難場所であるデイパあかね側の受け入れ態勢を整えます。次に避難の道なりに応援職員を配置し、より円滑に高所への避難に努めます。  
(防災委員会)

### 実践する

茜会では震災に備え、年2回の定期的な避難訓練を行ったり、食料や寝袋等の備蓄や各部所備え付けの防災用品の準備等を行っています。

災害マニュアルの変更後さつそく、8月27日(木)に平屋の吾亦紅で夜間想定の水害訓練を実施しました。実際に入居者の方にも参加してもらいました。避難するのはデイパあかねの4階です。歩ける方でも避難場所まで距離があり、濡れている場所も通る想定の為、車椅子を使用しました。



吾亦紅の夜勤帯の職員は1人体制であり、他の部所の応援が必要で、限られた人数の中での避難になります。今回の訓練で、避難に20分かかりましたが、入居者に不穏は見られませんでした。少しでも落ち着いた避難ができるよう、少しでも多くの経験を重ねていきます。  
(吾亦紅 滝淵)

### 医師の紹介



勝村 浩敏 医師  
(かつむら ひろとし)

10月より縁あって、藤田神経内科病院に勤めることとなりました。今までは、脳外科医として、主に脳卒中に関わってきました。脳卒中は、脳出血と脳梗塞に分けられ、私が脳外科をやり始めた頃は、まだ脳梗塞の早期診断ができず、頭部CTで急性期に出血が無ければ脳梗塞の治療を始め、次の日のCTで確認というのんびりした時代でした。現在は、血栓溶解術や血栓除去術などが一般化し、急性期に行える治療が増えました。しかし、高齢化によって心房細動が原因の脳梗塞も飛躍的に増えたため、急性期を扱う医師に大きな負担がかかっています。

急性期医療はリタイアしましたが、少しでも急性期に携わっている医師の負担が減るように、仕事をおこなっていきたくと思っています。

